

Dementia-Friendly Community を再考する

～先進地域のトップランナーとの対話から～

#1 2017年9月16日(土) 14:00～15:40

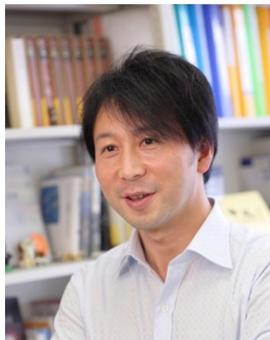
#2 2017年9月17日(日) 14:00～15:40

明治大学中野キャンパス

Dementia Friendly Japan Summit 2017

認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ

Dementia Friendly Japan Initiative (DFJI)



平尾 和之

京都文教大学／認知症のひとと家族の会。精神科医・臨床心理士。1999年京都大学医学部卒業。神戸市立医療センター中央市民病院にて内科研修医として勤務。2001年から京都大学医学部附属病院にて精神科医として仕事を始める。2002年－2004年、京都府立洛南病院勤務中に、京都・宇治で認知症専門家として活躍されている森俊夫医師と出会う。その後、2004年－2008年、京都大学大学院医学研究科精神医学教室にて、MRIを用いた統合失調症の社会認知障害の研究に従事。2008年に医学博士を取得。2008年－2010年、英国ロンドン大学精神医学研究所にて研究員として勤務。2010年、京都文教大学臨床心理学部准教授。2017年より教授。神経科学と心理療法のコラボレーションをテーマとし、認知症当事者の方々の主観的世界や生き方を思いながら、宇治市認知症アクションアライアンスに参加している。



稲垣 康次

1992年富士宮市役所入職。2007年から2013年まで保健福祉部で、認知症地域見守りネットワーク構築推進事業及び地域包括ケアシステム構築推進事業のプロジェクトに携わる。2013年に産業振興部観光課に配属となるが、仲間とNPO法人認知症フレンドシップクラブ富士宮事務局を立ち上げ、認知症を持つ人たちとともに活動している。本年度は老人保健健康増進等事業の認知症の家族等介護者支援に関する調査研究事業に取り組んでいる。



角野 孝一

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室地域リハビリテーション担当係長。2006年、川崎市役所に入庁。障害者福祉分野で相談援助業務や障害福祉計画、障害者相談支援事業などを担当。2013年から4年間、認知症施策を担当。認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ(DFJI)の協力も得ながら、「認知症の人にやさしい図書館プロジェクト」「『認知症の人の社会共生と課題解決』のための学生による国際交流・共同研究プロジェクト」、川崎市ブランディングムービー「COLORS」制作、川崎市版認知症ケアパス「認知症アクションガイドブック」制作などに携わる。



前田 隆行

1976年生まれ神奈川県出身。老年精神科病院の病棟やE型デイサービスの管理者を経て、若年性認知症デイサービス『おりづる工務店』創設。厚労省への提言を通して、介護保険サービス利用中のボランティア活動に対する謝礼の受け取りを認める“有償ボランティア”を実現に導く。若年認知症サポートセンター理事、NPO認知症フレンドシップクラブ・アドバイザーボード、NPO町田市つながりの開理事長。現在は東京都町田市にて次世代型デイサービス『DAYS BLG!』を運営し、認知症本人の「働きたい」「社会の役に立ちたい」という想いの実現に取り組んでいる。



猿渡 進平

昭和 55 年 11 月 30 日生まれ (36 歳)。福岡県大牟田市生まれ。中高校生時代はバスケット部に所属し部活三昧の生活を送る。その頃、同居の祖母に認知症が見られるようになり「福祉」というものに興味を持ち進学する。平成 14 年 4 月医療法人静光園白川病院に入社後、医療福祉連携課長、大牟田市中央地区地域包括支援センター、厚生労働省社会・援護局などの出向を経て現職。大牟田市保健福祉部地域福祉推進室相談支援包括化推進員も兼務している。社会活動としては、NPO 法人しらかわの会事務長、NPO 法人大牟田ライフサポートセンター理事、大牟田市地域福祉計画策定委員、認知症施策推進委員などを務める。



竹下 一樹

社会福祉士、介護支援専門員。大牟田市保健福祉部健康長寿支援課 相談支援包括化推進員 (通称:よろず相談員)。九州看護福祉大学社会福祉学科を卒業後、平成 21 年に白川病院に入職。平成 24 年 10 月から大牟田市中央地区地域包括支援センターにて勤務し、平成 28 年 10 月より現職。現職では誰もが安心して住み続けられる大牟田市を目指し、児童、障害、高齢、生活困窮等の福祉分野の課題解決を図るために事業者、教育関係者等と連携し実務に当たっている。



田中 克博

大阪府立修徳学院次長兼総務課長。前々職の高齢介護室所属時「介護保険制度」「地域包括ケアシステム」「認知症対策」等を担当。また、地元の精華町で、認知症についての正しい知識と理解を広め、当事者本人とその家族を支援する「認知症サポーター」の養成を積極的に展開、養成講座の講師役となる「認知症キャラバン・メイト」の連絡会を組織化するなど、「認知症になっても安心して暮らし続けるまちづくり」に取り組んでいる。精華町での活動は、ACジャパンの支援キャンペーンCM「小中学生サポーター」で取り上げられた。



若野 達也

昭和 48 年 11 月 27 日生まれ。日本福祉大学卒。医療機関・障がい者施設・市役所勤務を経て、認知症グループホームを設立。若年認知症の地域課題を解決するため、きずなやを設立。地域の農業関係者等と地域と認知症問題を共に考えている。役職)一般社団法人若年認知症サポートセンターきずなや代表理事、奈良市グループホーム古都の家学園前代表、全国若年認知症家族・支援者連絡協議会事務次長、公益社団法人日本認知症グループホーム協会奈良県支部長/代議員、NPO 法人認知症フレンドシップクラブ理事、奈良追分認知症×農業プロジェクト代表、奈良県認知症・若年認知症自立支援ネットワーク会議委員、大阪府若年認知症自立支援ネットワーク会議委員

セッションの目的

今、「Dementia-Friendly Community (DFC、認知症の人にやさしい地域・社会)」の名の下に、さまざまな地域で多くの取組が積み上げられています。世界でも DFC は認知症ケアにおいて最も重要なトピックとして認識されています。しかし、地域の様々な立場の人を巻き込んだ「地域ぐるみ」の取組は国内でも一部でしか進められていません。ひとつの地域を超えて取組を広げている事例はさらに限られています。そこには何が課題として残り、どうすれば取組を広げられる可能性があるのでしょうか？ このセッションでは、DFC の先進地域で取組を進めてきたトップランナーを2回に分けて招き、彼らとの対話を通じて DFC を再考し、さらに次のステージに進むためのヒントを模索します。

参加者のみなさまへのお願い

- 1) 本セッションの目的は登壇者による取組の紹介ではありません。それらを踏まえたうえで次に何が必要なのかを議論することです。そのため、各登壇者の取組の詳細については配布資料をご覧ください。セッション終了後のネットワーキングの時間を活用して直接お聞きください。
- 2) セッション後半はグループワークを実施します。グループワークで出された付箋の情報は、後日個人が特定されない形でテキストデータとして分析し、その成果は学会や論文等の形で公表する予定です。データの提供に同意いただけない場合は、その旨をオーガナイザーにお知らせください。同意いただけない場合でも何ら不利益を被ることはありませんのでご安心ください。

オーガナイザー



河野 禎之

認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ (DFJI) 「指標プロジェクト」代表。臨床心理士。筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ部門助教。東京学芸大学で修士、筑波大学で博士を取得し、一貫して認知症の人と家族の支援に関する研究に関わる。研究領域は、認知症の認知機能障害及び行動・心理症状のアセスメント、社会における認知症の人と家族のダイバーシティとソーシャル・インクルージョン、認知症にやさしい地域の評価等がある。世界認知症若手専門家グループ (World Young Leaders in Dementia) の一員でもある。



徳田 雄人

一般社団法人認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ共同代表。NPO 法人認知症フレンドシップクラブ理事。株式会社スマートエイジング代表取締役。NHK 番組ディレクターとして、医療介護に関する番組を制作。2009 年、NHK を退職後、認知症の人にやさしい地域・社会づくりの活動を開始。国内外の認知症の人にやさしい地域の調査やネットワークづくり、自治体や企業などと協働したイベントの運営、商品サービスの開発支援などを行う。認知症フレンドリー社会をみざす自治体、企業、NPO などの有志により、2013 年、認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ (DFJI) を設立。国内外の認知症フレンドリーコミュニティの調査やネットワークづくり、認知症の人にやさしい社会づくりに向けたセクター横断型のプロジェクトに関わる。